



▲5月22日に開催された講演会の様子。
東京藝術大学との連携事業の詳細は今後、
市のホームページ等で発信する予定です。

pick up!

高校生とつなぐ笑顔の場

「ちくちくワンダーランド」

市と筑豊高校が校内で協働で運営する子育てサロン「ちくちくワンダーランド」は、地域で子育てを支え合う多世代交流の拠点です。生活デザイン科の生徒たちが手作りのおもちゃやふれあい遊びを通して、乳幼児や保護者と温かく交流します。

指針が掲げる「皆で学び、遊ぶ場」を体現するこの場では、こどもたちがのびのびと遊ぶ一方で、高校生も、こどもや子育てを身近に感じながら、楽しく、実践的に学ぶことができます。また、保護者が安心して立ち寄り、悩みや不安を気軽に相談し合える場としても、大切な役割を担っています。世代を超えた温かなつながりの中で、保護者の子育ての不安をやわらげるとともに、高校生も、未来の地域を支える一員として成長するなど、地域みんなで子育てを支え合う循環を生み出しています。



【ちくちくワンダーランドの詳細と今後の予定】

対 0歳児から就学前までのこどもと保護者、妊娠中の人

時 9月16日（水）絵本読み聞かせ講座・交流

11月14日（土）筑豊高校文化祭

「ちくちくワンダーランド」であそぼう！

12月9日（水）おやつレシピ紹介（高校生）・交流

1月13日（水）手づくり小物紹介（高校生）・交流



▲詳細は市ホームページ

pick up!

地域と連携してこどもたちを笑顔に

こどもの居場所づくり

未来を担うこどもたちを地域全体で育むため、多くのボランティアや市民団体が手を取り合って子育て支援に取り組んでいます。未就学児の親子が気軽に集える場所や、ほっと一息つける遊び場の運営、絵本の読み聞かせを行うブックスタート等、活動は多岐にわたります。孤立しがちな子育て期に、地域が温かい居場所となり、多世代で支え合う体制が市内に広がっています。→団体等の詳細は、P.6～7「親子でつながる」に掲載しています。



▲直方市地域子育て支援センター



特集

笑顔つながる、こどもの未来

こどもたちの屈託のない笑顔は、私たちの宝物です。その笑顔を未来へとつなげていくために、いま、私たちにできることは何でしょうか。

現在、少子化やデジタル化の進展等、こどもを取り巻く環境は大きく変化しています。実体験や多様な人々とのふれあいの不足といった課題も浮き彫りになる中で、直方市は令和7年9月、「直方市乳幼児教育・保育の指針」を策定しました。

この指針は、特定の大人との愛着関係を基盤に、友だちや地域へと関係を広げ、豊かな経験を通して「心の安定」と「生きる力の基礎」を育むことを目的としています。

私たちが目指すのは、「のびのびとおおらかに、ガチでやり切る、たくましいのおがたっ子」です。そんなこどもたちの姿を支えるのは、家庭だけではありません。幼稚園や保育所、そして地域全体が手を取り合い、社会全体でこどもを育む大きな輪が必要です。

今回の特集では、東京藝術大学との連携や地域の居場所づくり等、こどもたちの笑顔未来へつなぐ、「直方市のつながり」の取り組みをご紹介します。



▲「直方市乳幼児教育・保育の指針」の詳細は市ホームページ